



2015年7月16日

## テロと経済:ケニアの場合

公益財団法人 国際通貨研究所  
 経済調査部 上席研究員 森川 央

ケニア経済は、2015年1-3月期も前年比4.9%と、一見堅調である。にもかかわらず、為替レートは大幅に下落してきている。下落の理由として、ドル高、周辺国の為替下落などの外部要因もあるが、ケニア自身にも二つの要因がある。経常赤字と財政赤字（いわゆる「双子の赤字」）と、テロの激化による観光収入の減少である。「双子の赤字」については別稿で検討するとして、本稿ではテロと観光に注目したい。

隣国ソマリアの内戦が長期化しており、ケニアは2011年に越境介入をした。その前後からケニア国内でもテロが増加しており、昨年は発生件数が3ケタ（115件）に達した。テロ増加に伴い、外国からの観光客数は減少し、2014年は前年比22%減の86万人に留まった。「旅行」の受取は同9.4%減であった。

主たる輸出産業は茶葉、園芸というケニアにとって、観光は重要な外貨獲得手段である。旅行と運輸収入を合計すると、商品輸出の53%に匹敵する（2013年）。観光客数は2015年に入ってから減少しており、1-4月期は前年同期比-27.2%である。為替市場は、テロによって観光立国というケニアの「ビジネス・モデル」自体が揺らいでいることを懸念している。

ケニアシリングの対ドルレート



(資料)Thomson Reuters

受入観光客数とテロ件数



(資料)Thomson Reuters, Global Terrorism Database

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。